



考
え
ま
る

馬か鹿かは、
どっちでもいい。

第夢無回 自分の祭りとしてのサッカーと

『さかなのこ』

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

目次

第夢無回 自分の祭りとしてのサッカーと『さかなのこ』～G から U へ～ . . .	1
--	---

第夢無回 自分の祭りとしてのサッカーと『さかなのこ』～G から U へ～

古市・成田・カズレーザーら進歩系コメンテータがこぞってあんま興味ないって言うてるから、なんでだろうって勝手に妄想した。

この国がミサイル攻撃でインフラ破壊されて、多くの国民が死んだり寒さに凍えたりしてても、ゴミ拾いや VAR 判定に夢中で賛否両論ボヤ騒ぎしてんのかな、って思って観てるけど、別に俺だけじゃないよね？ みんなそうだよな？

たとえ世界中が核の炎に包まれて、たまたま各国 11 人しか生き残らなくても、ちょうどサッカーできる人数で世界中ラッキー、って W 杯開催するよね？

他人の玉蹴り祭りで大騒ぎしたり報道して煽ってる人たちは、他人の戦争にも関心持ってデモしたり現地取材してるよね？

まさか、戦争は無自覚に無視して、祭りだけ気持ちよく盛り上がってないよね？

盛り上がったあげく我を忘れて、街頭占拠したり全国民応援してるって何の根拠もない煽りを垂れ流してないよね？

実際、どんくらいの戦争の規模で、どのくらい人が死ぬと、世界的イベントって中止になるのかね。この感じだと、核で数か国が多大な被害を受けたくらいでは、数日延期さえならないかもね。俺らが徴兵されて犬死かウマ死かシカ死かウマシカ死したくらいでは、1 秒の黙とうさえ惜しまれる気がするわ。

人生を豊かにするために一人勉強したり努力する姿勢は平和につながるけど、他人のフンドシで鬼の首取ったかのようにボヤ騒ぎする集団エンタメ乞食は戦争につながる、と妄想する俺はウマシカが過ぎるね。

ただ同じ他人事にも関わらず、祭りにだけ騒いで戦争は無視するんであれば、自分もいつか無視される被害者側になるかもしれないって覚悟はしといたほうがいい。って毎

度だけど結局、自分の身は自分で守るしかないし、人間なんてもともと野生動物に毛が抜けた程度だから、世界は弱肉強食だし人間が利己的なのは至極当然って結論だ。

つまり彼らコメンテータは、お前がサッカーやれって思ってるんよ。他人の祭りに踊らされるんじゃないでさ。いらん代弁の、勝手な妄想だけど。

俺も始めて4ヶ月経つけど、サッカー本当に面白いよ。足でやることで運動量が半端ないし、ポジショニングをすごい意識して頭も使う。

両手か手足かの差で不公平な部分も逆に燃えるし。ボールが自分の体くらいデカいとことか4人制ってところも上手く出来てるし。

『nintendo switch sports』のサッカーを足でプレイするの、全然世間に広まってないし、たぶん作ってる人たちですらその革新性と手軽さに気づいてないんじゃないかと思う。

『nintendo switch sports』では7種目のスポーツが遊べるけど、他の両手を振ってプレイする種目は俺の感覚では、面白いけどゲームの延長でしかない。例えば、新しく追加されたゴルフも基本的には腕を振るだけのゲームだ。少なくとも、バーに置いてある本格的なゴルフシミュレータには臨場感で劣る。

でも、足でプレイするサッカーだけはゲームを超えて、ゲームと運動の融合した新しいジャンルだと感じる。ゴルフシミュレータに似て、もはや手と足を使わないゲームには戻れないくらいの革新性がある。

俺としてはゲームじゃなく、むしろ人生の一部としてプレイしてる。かなり痩せて筋肉付いたし、体が軽くなったついでに腕立てまで始めたし。

深夜に外出も着替えもいらず、部屋着のままでも対戦と運動ができるって革命に、現代人は早く気づいていいと思う。

数年後にこのサッカーがeスポーツの新しい扉を開いたって語られることを俺は確信してる。

あと『さかなのこ』って映画が面白かった。あんま誰も言ってないけど、「男の子」でも「女の子」でもなく「魚の子」っていう新しい性別がある世界で、サカナノンって新種のポケモンがピカチュウばりにめっちゃ輝いてるって話。

脳がバグるファンタジー映画だった。

でもその脚本家が最近セクハラで告発されてて、確かに芥川賞候補『グレート生活アドベンチャー』とか、賞とったドラマ『徒歩7分』とか、ダメ人間の滑稽話だったからね。

クズな作者が素晴らしい物語を作るこの世界では、思わせぶり詐欺だけでなくロマンスセクハラにも気を付けろって思い知ったよ。

深刻な悲劇を深刻なまま表現するドラマって世間では高評価なんだけど、俺は深刻な悲劇の裏側にある滑稽な喜劇を同時に表現するドラマの方が好きで。深刻ぶってもどうせクソして寝るのが人間だし。

特に親子間の深刻な祖語について、『さかなのこ』も寺地はるなの小説も悲と喜をさらっと描く作品なんだけど、その上をいく作品だと思うのが『凧のお暇』って漫画で。前も言った気がするけど、ふんわり4コマみたいな絵で、様々な人間模様に射す地獄の光をやんわりと描いてる。

そりゃ人目を引くために最近も、母親が娘の首を絞めたり、聴力を失って恋人と別れるとか、衝撃的に表現しとけば騙される客はいるよ。また予告だけ観た妄想で書くけどさ。

ただ実際の人生は多くの場合そんな劇的じゃないし、もっと断然つまらない。

それでもそのつまらない決断をなぜ下したのか、微細な心理描写をどこまでも深く描くと、とんでもなく巨大な因果のマントラが勝手に浮かび上がるって漫画。あの絵で描かれたら地獄の鬼もウサギさんに見えるくらい、軽やかに重い。

漫画を超えて、純文学の最先端かもって思う。

最後に余計なウマンカを書くんだけど。

俺も春樹をオマージュして、自分の体験を文章にした過去がある。そこには地震を起こすミミズが出てくるし、まだ続いていて何も終わってないから窓は開けたままにしておいた。今でもその傷口に似た窓からは風の音が聴こえる。

そういう経緯があるからあえて書くけど、震災をネタに金を稼ぐなら、勝手に戸を閉めて自分一人解決したような顔をするな。そんなに戸を閉めて過去を全部なかったことにしたいなら、せめて被災者に断ってから戸を閉めろ。

もしそんなつもりはないと言うなら、映画が公開されている今まさに、甲状腺ガンを全摘したり再発してる子供たちの不安な声を載せた要望書が子供基金によって県に提出された事実を認識し、その儲けた金の一部でも寄付にあてたほうがいい。戸を閉める前に子供たちの切実な声に耳を傾けた方がいい。

そうでなければ、震災をネタに金を稼いだ上に、風化に加担するどころか勝手に戸を閉めて全部なかったことにしようと悪意を持った自慰映画でしかない。

春樹へのオマージュもただの冒涇にしかかってない。

もちろん、わかってるよ。「戸の開閉で世界を救う」ってイケメンお祓い業者の世迷言にホイホイついていたら高額の壺買わされるぞって、若い人向けに注意喚起してるんでしょ？ 思わせぶりロマンス詐欺映画にひっかかるなよって授業料取ってるだけでしょ？

ついでに「握手でタイムリープ」って初めから騙される方が悪い荒唐無稽なタイムリープ詐欺にひっかかって、最終回で後悔してる読者も自業自得だよ。つまらないの当たり前じゃん。

もちろん両方、観ても読んでもないから書くけど。そんな詐欺にはひっかかりません。

カズレーザーの番組とか人工知能の話もしたかったんだけど。まあ次回でいいや。

今回はこんな感じ。

どうかな？



考えるウマシカ～第夢無回 自分の祭りとしてのサッカーと『さかなのこ』～

著 弦楽器イルカ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
